

第 39 回土木計画学研究発表会（春大会）：2009. 6. 13～14（徳島大学）
企画論文部門 セッション討議内容の記録

セッション名：信号機からの情報提供支援	
日付： 6 月 13 日（土）曜日，セッション時間： 16：30 ～ 17：30	
オーガナイザー・司会者名（所属）：名古屋工業大学（藤田素弘）	
討 議 内 容	セッション全体： まずオーガナイザーより本セッションの主旨が説明された。最近普及が進むLED信号機は情報通信能力を持ち、これを利用する事は、設置費用やメンテナンス費用などを節約できるなどメリットが多いとされた。その後、4名の発表を各8分で連続して行った後で、一括で討議した。 下記のような発表討議があった後に、最後にそれぞれの立場で今後の研究方向性について議論した。車両用信号機からのカウントダウン信号機は海外では設置されていることが多くっており、安全に寄与する効果が認められれば今後活用の可能性は大いにある。積雪地域での可視光通信技術では、発表者や指導教員（北海道工業大学亀山先生）から、今後何を情報として出すかについて十分検討して発展させていきたい。歩行者灯器の待ち時間表示ではさらに効果の高い方法を考える。視覚障がい者の可視光誘導では、より安全な方法を実験を通して研究していくという回答を得た。セッション参加者は20名程度であった。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(207) 加藤健太（名古屋工業大学） 車両用信号機からのカウントダウン信号機の効果について、実験を通して分析した結果が述べられた。青から赤への停止・通過判断モデルや赤から青への発進挙動モデルが提案されてカウントダウン表示方法の効果が検討された。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(208) 内藤恵（北海道大学） 積雪状況に置ける可視光通信の通信能力がさまざまな見地から分析された。積雪時でも一定の通信能力を持つことが発表された。可視光通信の能力について議論がなされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：(209) 三間賢一（星和電機） 待ち時間のドット表示付歩行者灯器の構成と効果について発表された。残り時間残存率の減少が見られるなど一定の効果があることが述べられた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：鈴木弘司（名古屋工業大学） 視覚障がい者に信号機からの情報提供を行う交差点横断支援についての発表がなされた。その横断支援効果に対していくつかの討議がなされた。
	（発表番号） 発表者名（所属）：

※発表件数に応じて適宜追加してください。